

道からのメッセージを手にする紀国隆二社長(中央)ら



ドナー休暇 紀の國建設導入

道南企業初

「社会貢献になれば」

函館市の建設業、紀の國建設(紀国隆二社長、25人)が「骨髄ドナー休暇制度」を導入した。骨髄提供のための入院などで仕事を休む際、通常の年次有給休暇などとは別の特別休暇とする制度。道によると、道南の企業での導入は初めて。

「骨髄バンクのドナー登録者が白血病患者らの治療のために骨髄などを提供する際には、入院や通院で10日ほどの休暇が必要になる。提供を辞退する理由に「仕事に影響する」との声があり、道などがドナー休暇制度の導入を呼びかけている。

26日には渡島総合振興局の酒井仁・保健行政室長が同社を訪れ、紀国社長に道と日本骨髄バンク(東京)からのメッセージを手渡した。酒井室長は「先進的な取り組みに感謝する」と述べた。同社の紀国隆介専務は「同業者がこの制度を導入していることを知り、取り組もうと思った。社会貢献につながれば」と話した。

道によると、道内では31の企業・団体が同様の制度を導入している。